

■ 前を向く若者、後ろを向く老人

修正： 2018.02.01

投稿： 2018.02.01



● 前を向く若者、後ろを向く老人①

一昔前の世代を「団塊の世代」や「バブル世代」と呼ぶのに対して、

比較的最近の世代は「ゆとり世代」や「さとり世代」と表現されています。

「やる気がないなら帰れ！と発破をかければ、

本当に帰ってしまうのだから、困ったもんだ… (*´Д`)」 (By バブル)

と言う声もあれば、

「今日も一杯行くか！と昭和のノリを強要されて迷惑だ…、

俺は独りの時間を大切にしたい \(*`^`)/」 (By さとり)

と言う声もあり、どうやら世代が違くと、

随分と価値観まで違うようで、話も噛み合いません。

さらに年齢差が広がり、これが老人と子供になると、

相手に対する見方も 180 度反対のものとなります。例えば、

お年寄り「うんうん、子供は元気が一番じゃよ」

と言われるように、子供は元気が一番です。言うことは、

逆に**老人には元気がない**ということでしょうか。はたまた、

町長「子供はこの町の宝です！」

と言われるように、子供は町の宝です。言うことは、

逆に**老人はもう町の宝ではない**ということでしょうか。

老人と子供について、いろいろ意見はあるところでしょうが、

フォード・モーターの創設者ヘンリー・フォードはこう言っています。

「20 歳であろうが 80 歳であろうが、学ぶことを辞めた者は皆、

老人である。学び続ける者はいつまでも若い。

人生で一番大切なことは、若い精神を持ち続けることだ。」

以降、老人と若者におけるコミュニケーションの溝について、

続けて考えていきたいと思います。

(続)

//=====//

●前を向く若者、後ろを向く老人②

「20歳であろうが80歳であろうが、学ぶことを辞めた者は皆、
老人である。学び続ける者はいつまでも若い。
人生で一番大切なことは、若い精神を維持することだ。」

は、自動車王ヘンリー・フォードの言葉とされていますが、
「学ぶことを辞めた者は皆、老人である」と言うことは、
「新しいものを積極的に受け入れる人は若者」とも言えるでしょう。

そういうのを「**未来志向**」と言います。
人間、いろいろなことを考えながら生きているわけですが、
それらは「未来のこと」か「過去のこと」かに分類できます。

ヘンリー・フォードの言葉(を拡張して解釈しますが)にしたがえば、
「未来のことを考える時間」の割合が多い人のことを「若者」と呼び、
「過去のことを考える時間」の割合が多い人のことを「老人」と呼ぶ、
ということが言えそうです。ゆえに、

「ああ～あ、昔は良かったなあ～(*´Д`*)」というセリフが、
自然と口から飛び出すようになれば**老人**というものも頷ける話です。

当然、未来のことを考えている人は、
誰かと話をするときは、未来のことについて話そうとしますし、
逆に、過去のことを考えている人は、同じく、
誰かと話をするときは、過去のことについて話そうとします。

未来のことを話したいのに、過去のことを話題にされれば、
会話もつまらなく感じますし、その逆もしかりでしょう。

こういった点からも、若者と老人の間には、
コミュニケーションに溝があることが分かります。

考えていることが正反対である以上、
どうしても**会話が噛み合わない**のです。

(続)

//=====//

●前を向く若者、後ろを向く老人③

若者は未来のことを考え、老人は過去のことを考えがちです。
そして、**思考がそのまま会話になる**以上、若者と老人の間で
コミュニケーションに溝ができてしまう、というのは当然の話です。

見方を変えて「**人生**」で考えるとどうでしょうか？

若い人はまだまだ寿命がある以上、
「これからどんなことをしようかな～ (▽+*)」と、
ついつい将来のことを考えたくなることでしょう。

しかし、もう残り寿命が少ない人からすると、
何かをしたくとも、その目標は達成できそうにないわけで、
「**後はのんびり余生を満喫したい！ (ー)**」
と考えるのが自然です。

っと、このように説明すると、
「**年を取るということは未来を失うということか…**」
と切ないように感じられますが、

年を取ったからと言って、失うことばかりではありません。

年を取れば取るほど得られるものの一つは、何と言っても**経験**です。

むしろ若者には、この経験が不足しがちであり、
本当のところ、経験者の経験談を欲しています。

しかしながら何かにつけて

「**ったく最近の若い奴らは…**」と言われれば、若者からしても、
「時代遅れのお前の説教なんか聞きたくないわ」と反発するところであり、

そうすればそうすればで、

「実績もないくせに生意気にしゃしゃり出る若者」と角が立ち、
世代間でお互いがお互いを見下す、という結末を迎えます。

若者は**未来**を、お年寄り**は経験**を、

それぞれお互いが持っていないものを持っている者同士、

手を取り合う方向で、何とか良好な関係を作れないものでしょうか。

(続)

//=====//

●前を向く若者、後ろを向く老人④

将来があっても経験は少ない若者、

経験があっても将来は少ない老人、

それぞれお互いに無いものを持っている者同士、

何とか手を取り、支え合えないものでしょうか。

以前ニュースで、80代のご高齢の方がパソコンを勉強して、

ブログや動画投稿をしている様子が紹介されておりました。

更新が止まっていれば、

「おい、生きとるかー!? (´□`;)!! 」と、

若い人から熱烈なメッセージが届けられておりました。

微笑ましい(?)光景です。

年を取り寿命が少なくなり、これから歩める道のりよりも、

これまで歩んできた道のりの方が長くなれば、

自然と、昔のことを考えるようになっていくものです。

それでも、前向きに生きる姿勢が

コミュニケーションする上で大事であると気付かされます。

未来志向であり続けるためにも、

「過去のこと」よりも「未来のこと」を“意識的”に考えるなどして(知的努力)、

意識を転換していくことが大切です。

「昔は良かった…」と、未来に否定的な姿勢では、

若者からすると「老人はどうやら後ろ向きだな…」と、

薄暗い印象を持たれてしまうことでしょう。

「20歳であろうが80歳であろうが、学ぶことを辞めた者は皆、

老人である。学び続ける者はいつまでも若い。

人生で一番大切なことは、若い精神を持ち続けることだ。」

以上、自動車王ヘンリー・フォードの言葉で、この章は終わりにしたいと思います。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)